

第八講 アクロポリスと近代

1. はじめに

アクロポリス

Alexandra L. Lesk, *A Diachronic Examination of the Erechtheion and its Reception*, Ph. D (Univ. of Cincinnati), 2004, pp.653-687.

2. トルコ時代

城塞・火薬庫・モスク・住宅（エレクトイオンの東側にトルコ時代の家屋やドーム、火薬庫）
独立戦争による破壊

瓦礫の山

3. 近代ギリシアのシンボルとしての復元

1834年9月18日のクレンツェの文書

「先ずパルテノンが発掘され修復される、……。パルテノンに次いで岩山の台地が西に向かって（発掘され修復）されるが、そこに博物館が建設されねばならない、次いでエレクトイオンそして最後にプロピュライアがその周辺とともに発掘され浄化され以上のような方法で修復される。」

4. 発掘の原則

「1)発掘はアクロポリスの全ての地点において岩山の表面に至るまで掘り進めなければならない。

2) 岩塊が発掘されたあと、これと現存している残りはスケッチするか、必要な場合には、写真で記録に残されなければならない。その後で発掘された地域は埋め戻されること、出てきた瓦礫は次のような方法で投棄すること、即ちこのような埋め戻しによってアクロポリスの大地は、それが恐らく5世紀にそうであったように、可能な限りもとの状態に戻される。

3) 岩塊が一見に値する場合には、これを埋め戻すのではなく、人目に付くようにし、周辺の瓦礫の山を隔離する為に、その周りを壁で囲っておくこと。

4) アクロポリスはその上の今なお残されている後世の全ての建造物から浄化されねばならない。

5) そこ此処に積み上げられている石は調査されねばならない。全く見るに値しないものは、我々はそれらを行なわれる埋め戻しに利用することによって、地面に埋め戻すこと。一見に値するものは、相応しい方法で設置すること。さらに、個別の建造物、例えば、エレクトイオン、パルテノン、プロピュライアなどに属しているそれらの石を選び出し、これらの建物の近くに

設置すること。これらの建造物に属さない全ての石は取り除いておくこと。」

5. 発掘の結果

「かくしてヘラスは文明世界にアクロポリスを高貴で、あらゆる^{バルバレントゥム}野蠻から浄化されたギリシア精神の記念碑として、また古代文化のすばらしい作品の尊い無比の宝庫として委ねるものである。そしてそれはすべての文化的民族を差別なく考古学の発展のために研究や、共同や、高貴な競争に誘うのである。」(Apx. Δελτίον 1890, S.3)

6. モダニズムとナショナリズムの相克

前期近代と中世の記憶の消去

古代ギリシア人と現代ギリシア人の直結

ファルメライヤーのギリシア人スラブ人説 (1830年)

「ギリシア人という種族はヨーロッパにおいて根絶してしまった。肉体の美しさも、燦然と輝く精神、調和がとれ質朴な風習、文化、競技場、町、村、見事な列柱それに神殿、それにその名前すらギリシアの大地の表面から消えてしまったのだ……。純粹の交じりつけないギリシア人の血の一滴も今日のギリシアのキリスト教徒の住民の血管の中に流れてはいないのだ。」(Falmerayer 1830: III)

コンスタンティノス・パオアリゴブロスの『ギリシア民族の歴史』5vols, 1860-74年のビザンツ帝国の再評価 (ヘレニズム) : 古代と現代をつなぐ橋

民族は二つの基準によって正統性を評価される。「古さ」と「連続性」である。

アゴラの発掘整備においてアテナイ最古の教会、『12使徒教会』が保存修築されている。修築作業は1954年2月22日に始まり1956年に終了。修築は「教会を本来の姿に復元するという目論見 (with a view to restoring the church in its original form)」で行われている(Athenia Agora Excavation, The Church of the Holy Apostles: http://www.agathe.gr/overview/the_church_of_the_holy_apostles.html)。

長いビザンツ帝国の歴史と文化を挟むことによって古代からの連続性を主張。

オスマン時代は？ ミット制によるオスマン帝国への組み込み。

7. 言葉の問題

カサレヴサ (純正語) とデモティキ (民衆語)

1901年 福音書事件

1903年 オレスティア事件

8・近代ギリシアの矛盾

ギリシア人の一部による王国（ギリシア人全体の三分の一）

多くのギリシア人は国外、特にオスマン帝国内に居住していた。

ギリシア王国は純粹の民族国家ではなかった。

他民族の存在。アルマニア人、アルバニア人、トルコ人、ユダヤ人など。アルバニア語系のアルヴァニテス。スラブ語系のスラヴォフォネス。トルコ語系のカラマンリデス。

つまり

民族を統合していないし、単一民族国家でもない。

アウトクトネス（土地者）とヘテロクトネス（余所者）の対立。

参考文献並びに参考資料

記憶の場について

ピエール・ノラ編（谷川稔監訳）『記憶の場—フランス国民意識の文化=社会史（1）～（3）』
（2002～2003年）、岩波書店。

Pierre Nora (éd.), *Les Lieux de mémoire I: La République*, Gallimard, 1984.

金沢城の復元について

金沢城復元基本方針検討委員会、『金沢城復元基本方針検討委員会報告書』平成17年3月。

<http://www.pref.ishikawa.jp/siro-niwa/kanazawajou/hishi/index.html>

<http://www.pref.ishikawa.jp/siro-niwa/kanazawajou/>

平城宮社の復元について

奈良市文化経済部観光課、『奈良市入込観光客数調査報告：平成17年』

http://narashikanko.jp/j/data/irekomi/h17/irekomi_17.pdf

平安神宮について

「平安神宮、鮮やか構想図 伊東忠太の直筆9枚発見」『京都新聞』、2009年5月21日

www.kyoto-np.co.jp/article.php?mid=P2009052100106&genre=M1&area=K00

ポンペイ観光について

Barbie Nadeau, 'Selling Pompeii', *The Annotico Report*, April 14, 2008.

小野田哲弥・井上裕史、「海外都市のブランド分析—インターネット社会調査データのSO

Mによる可視化―』『第10回 観光に関する学術研究論文』、2004年、1-15頁。

<http://www.mag.keio.ac.jp/~ond/sightseeing.pdf>

<http://en.wikipedia.org/wiki/Pompeii>

<http://www.annotico.com/2008/04/selling-pompeii-to-control-visitors-and.html>

‘Visiting Pompeii’, *Current Archaeology Co. UK*. 2009: <http://www.archaeology.co.uk/world-features/visiting-pompeii/all-pages.htm>

<http://www.worldheritagesite.org/forums/index.php?action=vthread&forum=5&topic=222>

ゲミレル島について

Sh. Tsuji (ed.), *The Survey of Early Byzantine Sites in Ölüdeniz Area (Lycia, Turkey). The First Preliminary Report*, 『大阪大学文学部紀要』35 (1995).

益田朋幸、「ゲミレル島遺跡（トルコ、リキア地方）と周辺のビザンティン銘文」、pp.137-8.

<http://www.jttk.zaq.ne.jp/sfuku239/lycia/95-medi-J.htm>

<http://www.jttk.zaq.ne.jp/sfuku239/lycia/>

www.waseda.jp/prj-med_inst/bulletin/bull01/01_10mas.pdf -html.

アクロポリスについて

Panagiotis Cavvadias, *Die Ausgrabung der Akropolis vom Jahre 1885 bis zum Jahre 1890*, Athens, 1906.
Ministry of Culture Committee for the Preservation of the Acropolis Monuments, *The Acropolis at Athens: Conservation Restoration and Research 1975-1983*.

E. Yalouri, *The Acropolis: Global Fame, Local Claim*, Berg, Oxford/New York, 2001.

<http://www.ahistoryofgreece.com/photos/parthenon-destruction.htm>

http://www.agiasofia.com/megali_idea/megali_idea.jpg

周藤芳幸・村田奈々子、『ギリシアを知る事典』、東京堂出版、12頁；254頁、2000年。